

自立活動学習指導案

授業日時：令和6年 月 日()

○校時(○時○分～○時○分)

場 所：高等部○教室

対象生徒：高等部3年生 2名

1 題材名「教員との安定した関わりの中で、自分からやってみよう。伝えてみよう。」

2 生徒の実態

本学級は、高等部3年生2名で編制されている。生徒2名は、障がい特性や認知発達面に実態差はあるものの、学習活動や余暇時間には、自分たちから視線を合わせて微笑み合ったり、同じ玩具で遊んだりして互いを意識して関わり合う様子が見られる。本題材における個々の生徒の実態は次の通りである。

3 題材設定の理由

本学級の生徒は、「2 生徒の実態」にあるとおり、認知面や行動面、生活面等において支援者による支援の割合が多く、教員と1対1で過ごす時間の割合が多い。個々の生徒がスケジュールや授業ごとに教室へ迎えに来る教員を確認し、日々の学校生活や個々の学習についてある程度把握し、生徒なりに見通しをもって生活を送っている。本学級の生徒は、支援ツールや具体物を介して自ら見通しをもつ機会が少なく、教員の指示や音声言語による働きかけを受けて受動的に思考・判断する機会が多い。生徒たちは共に高等部3年生で、それぞれ生活介護の福祉サービス事業所への移行が想定されており、支援者との信頼関係の下、日々の生活に見通しをもちつつ、支援者からの支援を受け入れながら自らの自立した生活を送ることが望まれる。こうしたことを踏まえ、4月から関係性ややりとりが安定的で円滑にできるような関わりを重視して学習活動を設定してきた。A については、周囲の影響を受けやすいため、本人がわかってできる視覚的支援やツールを活用し、教員が一定の距離をとって関わり、自ら確認して思考・判断して学習活動に取り組むことを積み重ねてきた。このような一定の関わりを続けることで、教員に頼るのではなく、支援ツールを自ら確認して自主的に次の活動(役割)の必要物を準備し、教員に「一緒に行こう」とジェスチャーで伝える場面も見られるようになってきた。B については、一定の活動場面毎で定型的な言葉掛け(スクリプト)による関わり(やりとり)を徹底することで、教員からの働きかけを受け入れて応じることができるようになってきた。教室での対面学習や教室外への配達の仕事等の取り組みについても少しずつバリエーションを増やしてきた。徐々にではあるが、生徒から教員に対して遅延エコラリアではあるものの、歌のフレーズや表情を見せる等の働きかけを見せるようになってきた。

以上のことから、2名の生徒は障がい特性に起因したり知的障がいに随伴したりして他者との安定的・円滑な関係づくりやコミュニケーション面の困難さを抱えている。そこで、教員との人間関係の下で安定した心理状態を保ち、支援を受けながら学習課題に見通しをもって取り組みつつ、教員からの働きかけを理解して受け入れたり自分の意思を教員が分かる方法で自発的に伝えたりする経験を積むことに重点を置く必要があると考えた。

本主題では、「2 生徒の実態」や上記のとおり、2名の生徒の実態に合わせて、教員との安定した人間関係を築くことや、教員からの支援を素直に受け入れたり自らの意思を相手がわかるように伝えたりすることができる経験を積むことを中心的課題に位置付ける。

A に対しては、間接的な関わりとして、ワークシステムを活用しながら、自らの役割や指示内容を理解して一人で課題遂行に取り組むことや、直接的な関わりとして、教員や B と協力しながら学習に取り組む場面を設定する。これらのことにより、場面や状況に合わせたやりとりや、他者との円滑な関わり方を知り、本人の表出方法を引き出すことを目指したい。またトークンエコノミーシステムを導入し、大人からの言語でのフィードバックだけでなく、目に見える形や手続きを通じて評価を受け取ることで、自発性や自主性、意欲を高められるよう配慮する。獲得したトークンは、授業のまとめで確認し、好きな活動を選択して、休憩時間にスケジュールに追加することで成果を確認することができるようにする。次に、「配達」では、自らの役割を理解して一人で遂行することをねらいとする。さらに「御用学

習」では、一人で役割を遂行するのではなく、指定された場所へ向かい預かった伝言カードを渡し、場面や状況に応じたやりとりを行うことをねらいとする。「対面学習」では、①指示理解、②絵本、③単純軽作業、④積み木積みの4種類の学習を取り扱う。①指示理解では、物の用途理解や問われていることの内容理解を主なねらいとし、「コミュニケーション」の「言語の受容と表出に関すること」と関連付け、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりすることについての学習を行う。「○するのはどれ？」と教員からの問いに対して正しい具体物を選択することに加えて、iPad を使用し、「赤い○はどれ？」等の色や形容詞等も扱いながら、認知面の学習も取り入れる。②絵本では、「コミュニケーション」の「コミュニケーションの基礎的能力に関すること」について、本人の興味のある絵本を教材として取り上げ、音声言語やジェスチャーを交えながら、やりとりを楽しむことをねらいとする。登場人物の表情やストーリーに注目して親しみながら、自発的な表出を引き出しながら学習を進める。③単純軽作業では、「コミュニケーション」の「コミュニケーション手段の選択と活用に関すること」と関連付け、作業を進めるなかで不足した材料に気づき、絵(イラスト)カードを用いて教員に伝えることをねらいとする。④積み木積みでは、「人間関係の形成」の「集団への参加の基礎に関すること」と関連付け、机上に並べたカードを選択し、そのカードと同じ色の積み木を積むといった簡単なルールのあるゲームを行う。扱うルールは、教員と交互に行うこと、カードと同じ色の積み木を積むことの二つとする。ルールを守って、教員と協力して一定数の積み木を積むことができれば終了とする。最後に B と一緒に行う「マグネット貼り」においては、教員から渡されたマグネットを B と交代しながら貼ることで相互にやりとりをしながら協力して学習を進める。

B に対しては、自身の有するてんかん発作への対応や支援者による支援をスムーズに受け入れることができるように、心理的に安定した人間関係を築くために、自分の意思を相手に伝えて受け入れてもらう経験を積むことで、安定した関わり合いの中で生活や学習に取り組む経験を積ませたい。まず、「配達」では、「人間関係の形成」の「他者とのかかわりの基礎に関すること」、「環境の把握」の「認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること」と関連付け、日常のなかで取り組んでいる教員との定型的なやりとり(スクリプト)を中心とし、教室や特別教室の名称の理解や自立した移動に繋がる学習を行う。配達物は教員から指定されたものと本人が2つの中から選択したものの2種類とする。対面学習では、「身体の動き」の「作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること」、「コミュニケーション」の「コミュニケーションの基礎的能力に関すること」、「言語の受容と表出に関すること」と関連付け、プットインや追視課題等の学習を進めることで、両手を使って作業することや見て確認をしながら作業すること、困ったときに「手伝って(お願い)」と具体物を渡して伝えられること等をねらいとする。A と行う「マグネット貼り」では、「人間関係の形成」の「他者との関わり合いの基礎に関すること」、「コミュニケーション」の「言語の受容と表出に関すること」と関連付け、A と一緒に同じ課題を共有し、教員や A からの働きかけを受け入れて、やりとりをしたり、そのやりとりに応えようとしたりすることをねらいとしたい。

上記の学習活動を進める上で、2名の生徒の注意の持続や認知の特性に配慮して、学習を一学習に対して5分から8分程度で完了できるようにユニット設定とする。その際、個人の役割遂行の時間に加えて、教員や生徒同士が協力して集団で役割遂行する学習ユニットも設けて、相互に意識し合い、やりとりしたり交渉したりする機会を確保する。また、具体物の直前提示やイラスト等を使用したワークシステムを用いることで活動の見通しをもつことができるように配慮するとともに、教員による一方的な働きかけによる生徒の受動的な学習態度に陥らないようにするために、適宜、生徒自らによる思考・判断を引き出すような促しや選択の機会を積極的に設定する。教員からの働きかけにおいては、教員があれこれと思い付く音声言語を発して関わるのではなく、定型的なやりとりとともに、学習ユニットに即した促しや模倣・代弁を用いた一定の関わりに終始して、生徒が安定して学習に取り組むことができるように配慮する。「2 生徒の実態」にもあるとおり、注意の転導や感情のコントロールが難しい面もあるため、生徒が過度に気分を高揚させてしまうような関わりは控え、生徒に伝わる適切な音量や表現を用いた言葉掛けとし、身体ガイダンスは必要最低限とし、思いつきで教員が教室内をウロウロすることがないように一定の動線を保つようにする。さらに、生徒の心身の耐性も考慮して、状態に応じて適宜休憩を設ける等、ストレスや刺激を調整しながら、学習活動に安定して持続して取り組めることができるよう配慮する。授業のまとめでは、ワークシステム等を活用して活動をフィードバックし、受け取ったトークンを確認し、和やかな雰囲気でお茶を飲み、リラクゼーションをしながら振り返り・休憩の時間とする。教室環境も、個々の生徒の実態やコンディションに対応するため、対面学習や一人で

取り組む学習エリア、協力して一緒に学習するエリア、休憩エリア等を設定して、活動と学習内容の一致ができるようにする。また、音声言語のやりとりの理解の促進や注目を引き出すことを意図して、iPadも活用する。

以上の通り、自立活動「コミュニケーション」を核として学習を展開しつつ、A については、「心理的な安定」の「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること」、「人間関係の形成」の「他者との関わり」の基礎に関すること、「自己の理解と行動の調整に関すること」、「環境の把握」の「認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること」、「身体動き」の「作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること」、「コミュニケーション」の「言語の形成と活用に関すること」、「状況に応じたコミュニケーションに関すること」を年間を通じて主要な関連する観点・項目として位置付け支援にあたる。B についても、「健康の保持」の「病気の状態の理解と生活管理に関すること」、「心理的な安定」の「情緒の安定に関すること」、「人間関係の形成」の「他者との関わり」の基礎に関すること、「環境の把握」の「感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること」、「コミュニケーション」の「コミュニケーションの基礎的能力に関すること」、「言語の受容と表出に関すること」等について年間を通じて主要な関連する観点・項目として位置づけ、支援にあたる。両名とも、コミュニケーションに関する内容は個別の教育支援計画にも位置づけ、日々改善・克服できるよう支援している。

最後に、本学級の生徒は、それぞれ生活介護の福祉サービス事業所への移行が想定されており、来年の4月からまた新たな環境のもとで生活することになる。今年度1年間の学習を通して、心理的に安定した関わり・環境のなかで、大人を信頼し、一定の関係性のある大人に対して安心して自己表現し、他者に伝わる・分かってもらえたという経験を少しでも積み重ねてほしい。そして、様々な学習内容や手続きを通じた学習経験を積み重ねることを通して、他者とのやりとりする力の中でも、現状のコミュニケーションの幅や手段を少しずつ広げ、他者に伝わるコミュニケーション手段をより確実なものとしたい。大人が提示する指示や促しを受動的に受け取るだけでなく、提示された活動に対して見通しをもち、自らわかって取り組み、その活動について達成感や充足感を感じられるように学習への動機付けを高めたい。生徒それぞれの卒業後の充実した生活へ繋いでいくことができるよう、本題材を設定した。

4 題材の目標

- A ・カードやジェスチャーで教員に自らの状態や要求を伝えることができる。
- ・ワークシステムを確認して、自らの役割がわかり、一人で役割を遂行することができる。
 - ・ワークシステムを確認し、必要なものを準備したり、教員やBに自ら働きかけたりすることができる。
- B ・落ち着いた環境のなかで、教員からの働きかけを受け入れて、設定された学習活動に取り組むことができる。
- ・同じ活動を繰り返す中で教員から提示された活動がわかり、自ら役割を遂行しようとすることができる。
 - ・教員やAからの物を介した働きかけを受け入れたり、そのやりとりに応えようとしたりすることができる。

5 指導計画(全23時間)

- ・「教員との安定した関わり」の下で、自分からやってみよう、伝えてみよう[自立活動]」…全23時間(本時 8/23)

6 本時の目標

A	<ul style="list-style-type: none">・ワークシステムを確認して活動に見通しをもち、一つずつの活動に自ら取り組むことができる。・不足品があった際や活動終了時にカードやジェスチャーで教員に伝えることができる。・ワークシステムのカードを見て、必要な物がわかり、自ら準備をしようとするすることができる。
B	<ul style="list-style-type: none">・落ち着いた環境の中で、提示された活動を受け入れて取り組むことができる。・提示された仕事(2択)から一つ選び、教員と一緒に仕事を完了させることができる。・教員や他の生徒からの働きかけに応じたり、自ら働きかけたりしようとするすることができる。

7 本時の展開

時間	学習活動		指導上の手立て		学習活動における 具体的評価規準	評価 方法
	A	B	T1	T2		
1 分	1.はじまりの挨拶 2.各自のワークシステム(カードまたは具体物)を確認し、本時の活動を知る		・着席していることを確認し、Aに挨拶を促す。 ・A、B それぞれにワークシステム(カードまたは具体物)を渡して解説する。	・模範として、正しい姿勢で着席し、静かに見守る。	・自席に着席し姿勢を整え挨拶をすることができる。(A、B) ・T1 やワークシステム(カードまたは具体物)に注目することができる。(A、B)	発言 観察
10 分	3. 仕事(配達) ・音楽室 ・家庭科室 ・保健室 ・終了報告(T1) ・今の気分を伝える(T1)	3.対面学習① ・プットイン ・追視課題 ・紙芝居 他 4.休憩 ・休憩エリア内で過ごす	・Bに次の活動を提示し対面課題を開始する。 ・B の反応を随時確認し、一定の言葉かけとフィードバックを適宜行う。 ・Bに具体物を見せて次の活動を提示し、休憩エリアに移動する。 ・Aから終了報告を受けトークンを渡す。 ・Aの発信や状態に応じて言葉かけとフィードバックを行い、次の活動を促す。	・Aの見守りとタブレット端末での撮影を行う。	・ワークシステムを見て、配達を完了することができる。(A) ・提示された活動を見て、自ら活動に取り組もうとすることができる。(B) ・活動の終了報告をT1に行うことができる。(A) ・表情カードを指さして気分を伝えることができる。(A)	観察 観察 発言 観察 観察 発言

5分	4.対面学習① ・マグネット貼り	5.対面学習② ・マグネット貼り	<ul style="list-style-type: none"> ・Bに次の活動を提示し、着席を促す。 ・A、Bと一緒にマグネット等を通して、やりとりを行う。 ・やりとりの中で、具体物を指さしたり、オノマトペを使用したりしながら、マグネットへの注目を促す。 ・Aからの発信をBが気付いていない場面等では、Bに対し教員が注目を促す言葉かけをしたりAの発信を代弁したりしながら関わる。 ・A、Bからの発信に対して即時フィードバックし、言語称賛をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AとB、T1にマグネットや紙芝居を1枚ずつ提示する。 ・A、Bからの発信に対して言語称賛をする。 ・対面課題の片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩エリアから課題エリアに移り、着席することができる(B) ・提示された物の名称を音声言語で答えようとすることができる。(A、B) 	<p>観察 発言</p> <p>観察 発言</p>
5分	5.御用学習① ・保健室 ・終了報告(T1)	6.休憩 ・休憩エリア内で過ごす	<ul style="list-style-type: none"> ・Bを見守る。 ・Aから終了報告を受けトークンを渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Bの対面学習で使用する教材・教具を机上に準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシステムを見て、次の活動の準備をし、取り掛かることができる。(A) 	観察
4分	6.御用学習② ・職員室 ・終了報告(T1) ・今の気分をT1に伝える	7.仕事 ・配達(スティック) ・終了報告(T2) 8.休憩 ・休憩エリア内で過ごす	<ul style="list-style-type: none"> ・Bに具体物を見せて次の活動を提示し、配達へ向かう。 ・BにT2ヘカゴを渡すように言葉かけと最小限の身体ガイダンスをする。 ・Bに休憩エリア内に入るように促す。玩具を提示し、遊びを促す。 ・Aから終了報告を受けたらトークンを渡し、次の活動へ移るように促す。 ・Aの発信や状態に応じて、言葉かけとフィードバックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Aの見守りとタブレット端末での撮影を行う。 ・教室でBからカゴを受けとり、トークンを渡す。 ・Aの見守りとタブレット端末での撮影を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を見て、次の活動に取り組むことができる。(B) ・T2にかごを渡すことができる。(B) ・活動の終了報告をT1に行うことができる。(A) ・表情カードを指さして気分を伝えることができる。(A) 	<p>観察</p> <p>観察</p> <p>観察 発言</p> <p>観察 発言</p>

4分	7.ティータイムの準備 ・コップを出す ・お湯を沸かす ・急須等の準備 ・終了報告(T1)	9.仕事 ・配達(選択) ・終了報告(T2)	・Bに具体物を見せ、次の活動について2箇所の選択肢を提示し、選択を促した後、配達を見守る。 ・T2 ヘカゴを渡すように言葉かけと必要最低限の身体ガイダンスをする。 ・Aから終了報告を受け、トークンを渡し、次の活動へ促す。	・Aを見守る。 ・Aから要求があった場合、必要最小限の支援を行う。 ・教室でBからカゴを受けとり、トークンを渡す。 ・Bの対面学習の準備をする。	・2つの選択肢から1つの具体物を選ぶことができる。(B) ・ティータイムの準備を行うことができる。(A) ・T2にかごを渡すことができる。(B) ・活動の終了報告をT1に行うことができる。(A)	観察 観察 観察 発言 観察 発言
10分	8.対面学習の準備	10.対面学習 ・プットイン 他	・Aと一緒に対面学習の準備を行う。	・Bに具体物を見せ、次の活動への促しを行う。	・対面学習の椅子等を準備することができる。(A)	観察
	9.対面学習② ・指示理解 ・絵本 ・軽作業 ・積み木積み	11.休憩 ・休憩エリア内で過ごす	・Aと対面学習を行う。 ・対面学習終了後、Aにトークンを渡し、ワークシステムの確認を促す。	・Bに休憩エリア内に入るように促す。一定の距離から玩具を提示し見守る。	・指示された学習に音声言語やカード、ジェスチャー等を使って答えようとすることができる(A)。	発言 観察
5分	10.ティータイム ・お茶を入れる ・お茶を配る ・リラクゼーション ・トークンの確認をし、余暇の選択をする。	12.ティータイム ・コップをA生徒へ渡す ・リラクゼーション	・本時の活動を具体物、カード等で振り返る。 ・AとBに言語称賛を行い、トークンを渡す。 ・Aが獲得したトークンを確認し、スケジュールに選択した活動を追加する。	・A、Bの頑張っていた場面や様子について言語称賛をする。		発言 観察
1分	11.終わりの挨拶	13.終わりの挨拶	・着席していることを確認し、Aに挨拶をするよう促す。	・模範として、正しい姿勢で着席し静かに見守る。	・自席に着席し姿勢を整え挨拶をすることができる。(A、B)	発言 観察

トークンが貯まったときのご褒美:A生徒へはカード、B生徒には、小さいお菓子を渡すこととする。

8 教室環境

